

# 第 1 章

---

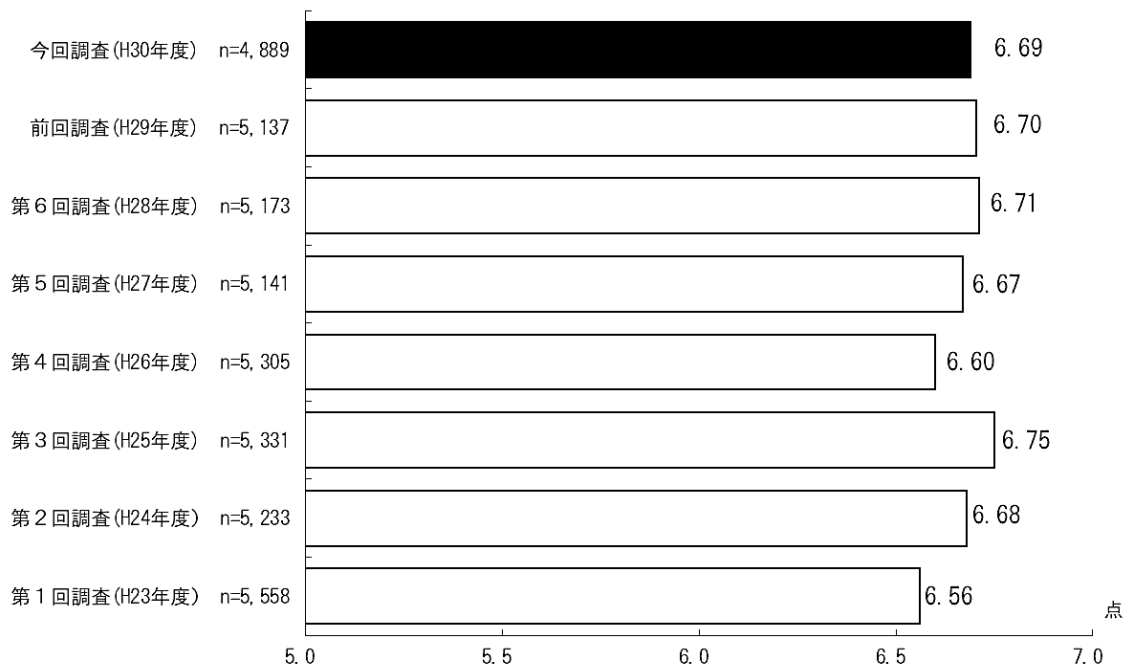
## 幸福感の現状



## 第1節 幸福感の県全体の状況

県民の皆さんが日ごろ感じている幸福感（以下、「幸福感」と記載）について10点満点で質問したところ、今回調査（平成30年度実施）の平均値は6.69点で、第1回調査より0.13点高く、前回調査より0.01点低くなっています（図表1-1-1、図表1-1-2）。

図表1-1-1 幸福感の平均値の推移



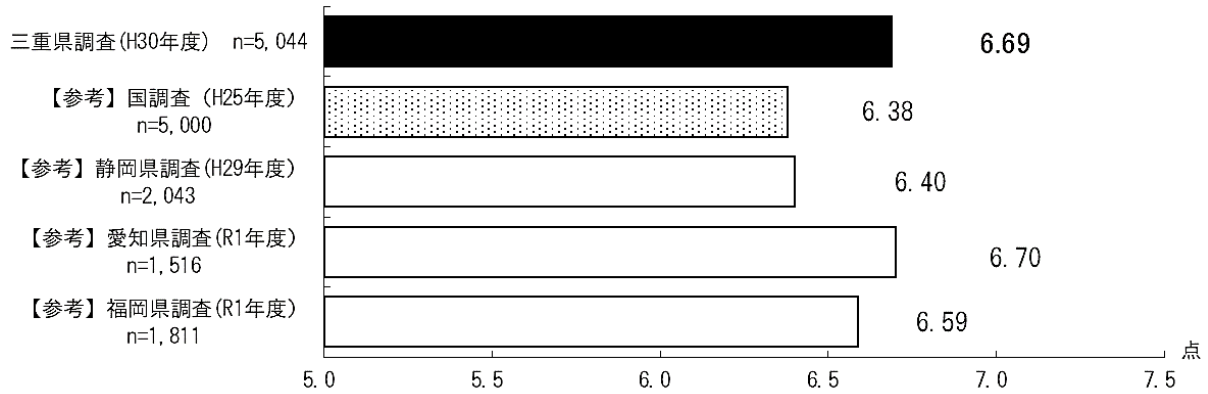
（備考）今回調査と第1回調査との差は、統計的に有意な差となっています。

図表1-1-2 みえ県民意識調査の調査概要（第1回～第8回）

	第1回調査	第2回調査	第3回調査	第4回調査
調査時期	平成24年1月～2月	平成25年1月～2月	平成26年1月～2月	平成27年1月～2月
標本数	県内居住の男女 10,000人	県内居住の男女 10,000人	県内居住の男女 10,000人	県内居住の男女 10,000人
有効回答(率)	5,710(57.1%)	5,432(54.3%)	5,456(54.6%)	5,444(54.4%)
調査対象	20歳以上	20歳以上	20歳以上	20歳以上
実施方法	郵送法	郵送法	郵送法	郵送法
	第5回調査	第6回調査	第7回調査	第8回調査 (今回調査)
調査時期	平成27年11月～12月	平成29年1月～2月	平成30年1月～2月	平成31年1月～2月
標本数	県内居住の男女 10,000人	県内居住の男女 10,000人	県内居住の男女 10,000人	県内居住の男女 10,000人
有効回答(率)	5,236(52.4%)	5,317(53.2%)	5,270(52.7%)	5,044(50.4%)
調査対象	20歳以上	18歳以上	18歳以上	18歳以上
実施方法	郵送法	郵送法	郵送法	郵送法

また、調査方法等が同一ではないことから単純な比較はできませんが、国や他県の調査結果は以下のとおりです(図表 1-1-3、図表 1-1-4)

図表1-1-3 幸福感（国調査及び他県調査との比較）



図表 1-1-4 参考とした国や他県の調査の概要

- ◎ 平成26年健康意識調査（実施主体：厚生労働省）
  - ・質問：「現在、あなたはどの程度幸せですか。」（みえ県民意識調査と同一）
  - ・実施時期：平成26年2月
  - ・有効回答数：5,000
  - ・調査方法：インターネット
  - ・幸福感：6.38
- ◎ 平成29年度県政世論調査（実施主体：静岡県）
  - ・質問：「あなたは現在、どの程度幸せですか。」（みえ県民意識調査と同一）
  - ・実施時期：平成29年6月～7月
  - ・有効回答数：2,043
  - ・調査方法：郵送法
  - ・幸福感：6.40
- ◎ 令和元年度第1回県政世論調査（実施主体：愛知県）
  - ・質問：「現在、あなたはどの程度幸せですか。」（みえ県民意識調査と同一）
  - ・実施時期：令和元年7月
  - ・有効回答数：1,516
  - ・調査方法：郵送法
  - ・幸福感：6.7
- ◎ 令和元年度県民意識調査（実施主体：福岡県）
  - ・質問：「現在、あなたは実感としてどの程度幸せですか。」
  - ・実施時期：令和元年7月
  - ・有効回答数：1,811
  - ・調査方法：郵送法
  - ・幸福感：6.59

## 第2節 幸福感の一属性クロス分析

幸福感を1つの属性（ここでは、地域、性、年齢、職業、配偶関係、世帯類型、世帯収入）によるクロス分析を行いました。個人の幸福感はさまざまであり、多くの要素と関係性があると考えられることから、県民の幸福感の特徴や傾向をより詳細に把握するためには、次節に記載する2以上の属性によるクロス集計の結果も合わせて見ていく必要があります。

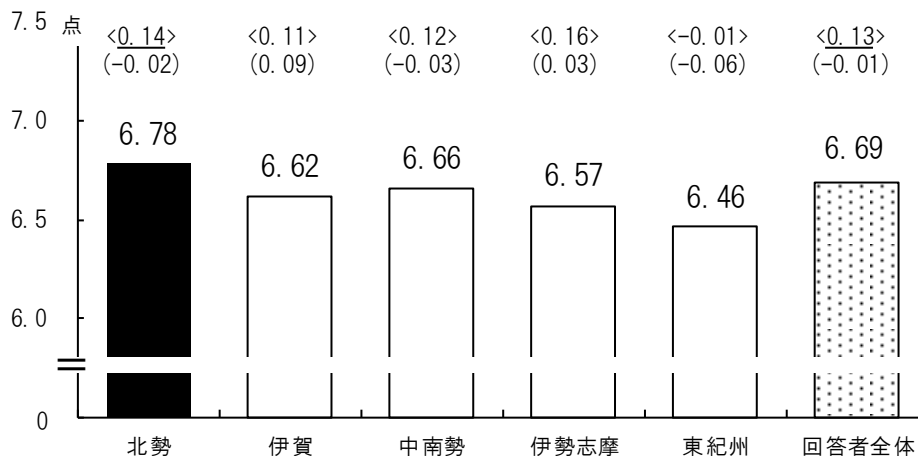
### 【凡例】

- 1 < >内の数字：第1回調査との差(点)  
 ( )内の数字：前回調査との差(点)  
 下線の数字：統計的に有意な差がある場合
- 2 ■ 黒色：幸福感の平均値が回答者全体より高く、かつ統計的に有意な差がある属性項目  
 ■ 灰色：幸福感の平均値が回答者全体より低く、かつ統計的に有意な差がある属性項目  
 □ 白色：幸福感の平均値が回答者全体と比べ、統計的に有意な差が認められない属性項目

### 1 地域別

回答者全体より、北勢地域の幸福感が高くなっていますが、他の地域では統計的に有意な差は認められません。第1回調査と比べ、北勢地域の幸福感が高くなっています（図表1-2-1）。

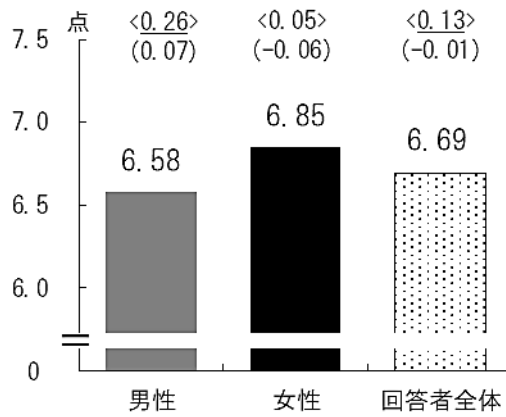
図表1-2-1 幸福感（地域別）



## 2 性別

第1回調査、前回調査と同様に、女性は男性より幸福感が高くなっています(図表1-2-2)。

図表1-2-2 幸福感(性別)

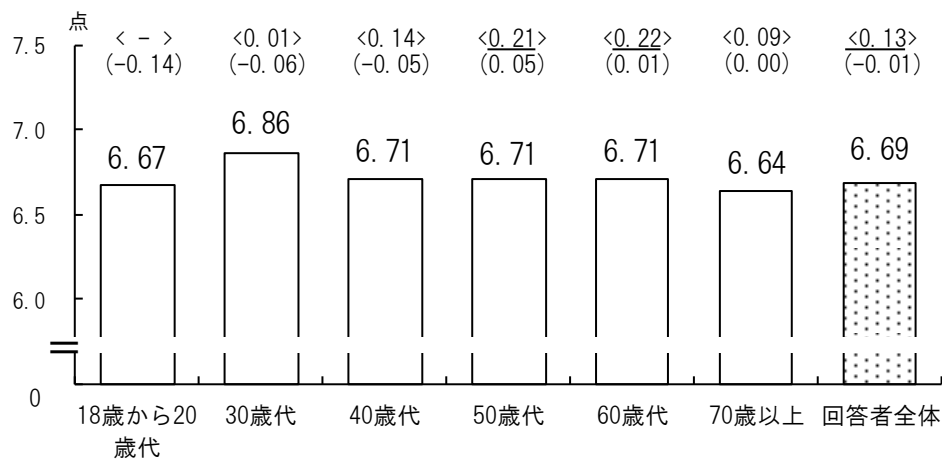


## 3 年齢別

いずれの年齢でも、回答者全体と比べて統計的に有意な差は認められません(図表1-2-3)。

第1回調査と比べ、50歳代及び60歳代の幸福感が高くなっています(図表1-2-3)。

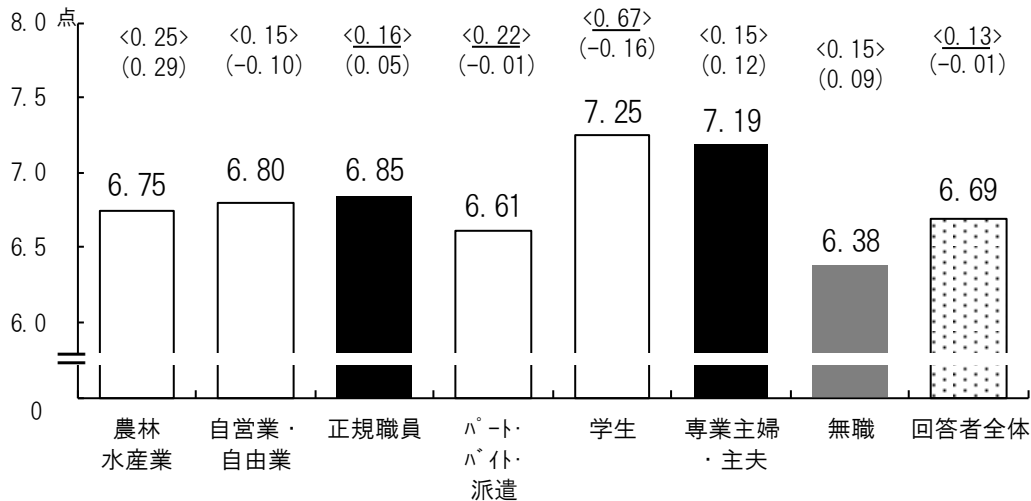
図表1-2-3 幸福感(年齢別)



## 4 職業別

回答者全体より、正規職員及び専業主婦・主夫の幸福感が高く、無職の幸福感が低くなっています。第1回調査と比べ、正規職員、パート・アルバイト・学生の幸福感が高くなっています（図表1-2-4）。

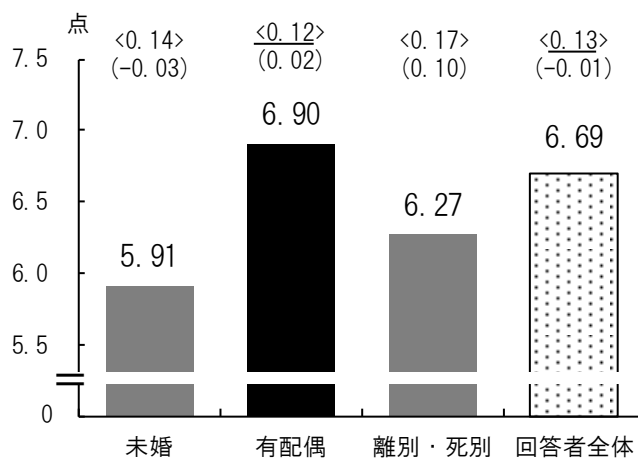
図表1-2-4 幸福感（職業別）



## 5 配偶関係別

回答者全体より、有配偶の幸福感が高く、未婚、離別・死別の幸福感が低くなっています。第1回調査と比べ、有配偶の幸福感が高くなっています（図表1-2-5）。

図表1-2-5 幸福感（配偶関係別）



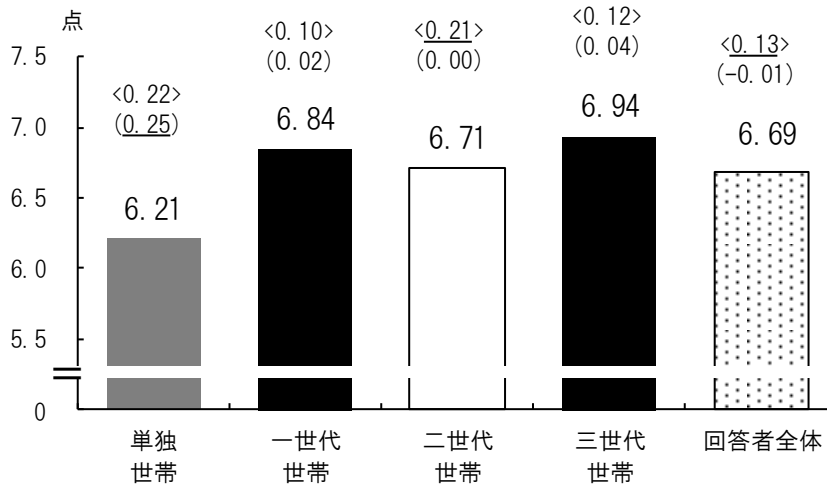
（備考）

今回調査では、離別と死別を区分して質問していますが、過去との比較のため、離別・死別を合わせて集計しています。

6 世帯類型別

回答者全体より、一世代世帯と三世代世帯の幸福感が高く、単独世帯の幸福感が低くなっています。前回調査との比較では、単独世帯の幸福感が高くなり、第1回調査と比べ、二世帯世帯の幸福感が高くなっています（図表1-2-6）。

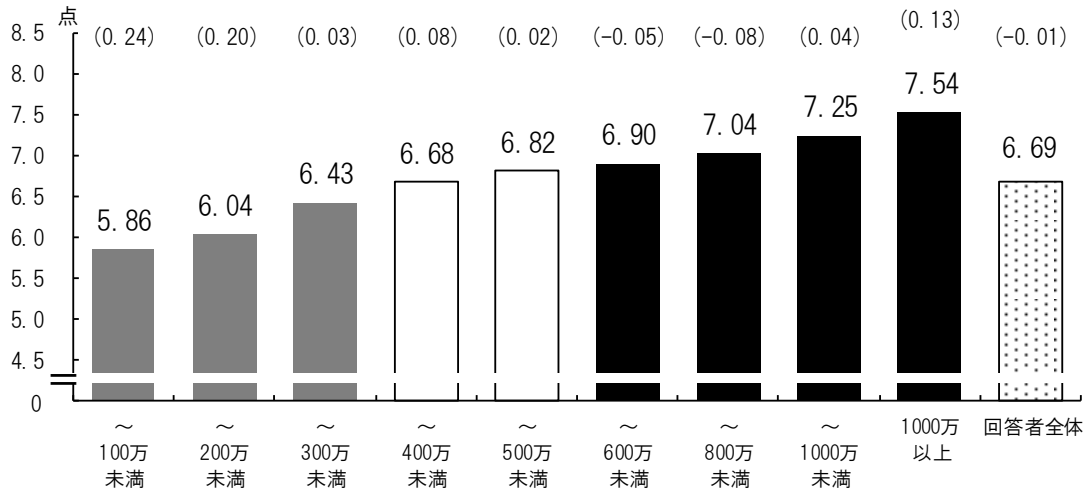
図表1-2-6 幸福感（世帯類型別）



7 世帯収入別

回答者全体より 300 万円未満の層の幸福感が低く、500 万円以上の層の幸福感が高くなっています（図表1-2-7）。

図表1-2-7 幸福感（世帯収入別）



（備考）第1回調査では異なる区分での世帯収入を質問しているため、第1回調査との比較はしていません。

8 幸福感の一属性クロス分析から判明した主なデータ

前回調査との比較では、世帯別類型で単独世帯の幸福感が高くなっていました（統計的に有意な差がみられたもの）。また、第1回調査から第8回調査まで、8回連続、回答者全体に比べ、幸福感が高いあるいは低い属性項目（統計的に有意な差がある場合）は次のとおりでした。

（幸福感が高い属性） 女性、専業主婦・主夫、有配偶、一世代世帯

（幸福感が低い属性） 男性、無職、未婚、離別・死別、単独世帯



## 第3節 幸福感の2以上の属性クロス分析

個人の幸福感はさまざまであり、多くの要素と関係性があると考えられます。そこで、県民の幸福感の特徴や傾向をより詳細に把握するため、2以上の属性クロスのうち、特徴的な傾向がみられた属性の組合せを掲載しています。

なお、分析にあたっては、全ての属性（性、年齢、職業、配偶関係、世帯類型、世帯収入、地域）を2つ組み合わせてクロス分析を行いました。

### 【凡例】

太字の数字：幸福感の平均値が回答者全体より高く、かつ統計的に有意な差がある属性項目

斜字の数字：幸福感の平均値が回答者全体より低く、かつ統計的に有意な差がある属性項目

↔：2属性間で最も点差が大きい属性項目

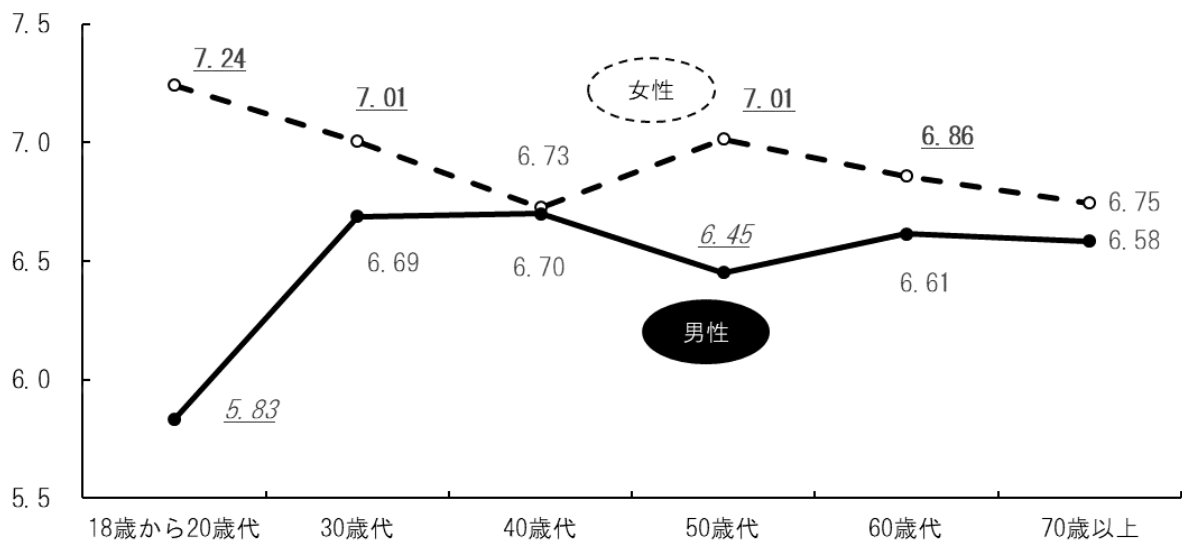
### 1 年齢別・性別を中心とした2以上の属性クロス分析

#### (1) 年齢別×性別

年齢別×性別に幸福感を見ると、女性の幸福感が男性よりも高くなっています。特に18から20歳代で女性と男性の幸福感の差が大きくなっています（図表1-3-1）。

（なお、30歳代と40歳代では統計的に有意な差が認められませんでした。）

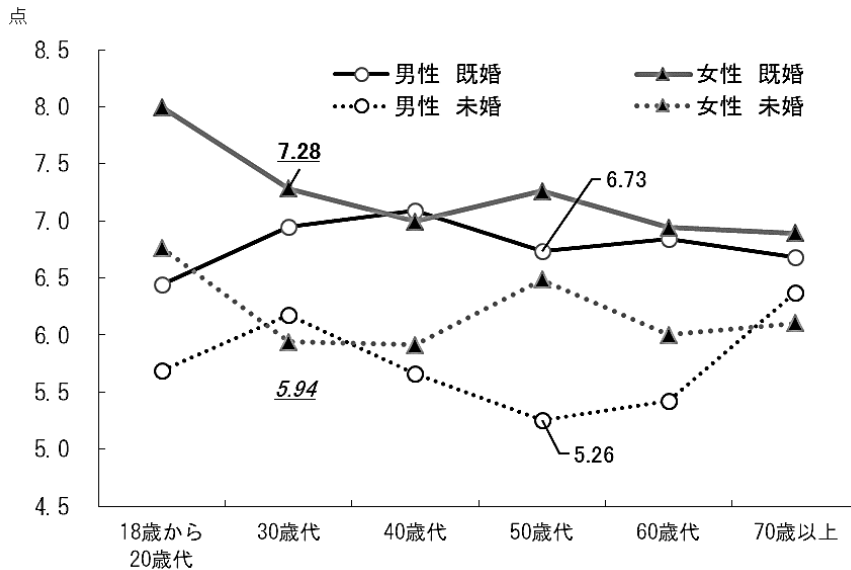
図表1-3-1 幸福感（年齢別×性別）



(2) 年齢別×性別×未婚・既婚別

年齢別×性別×未婚・既婚別に幸福感を見ると、男女ともに既婚の方が未婚より幸福感が高くなっています。男性は50歳代で、女性は30歳代で未婚と既婚の幸福感の差が大きくなっています(図表1-3-2)。(なお、統計的に有意な差があったのは、男性は30歳代から60歳代、女性は18歳から50歳代及び70歳代でした。)

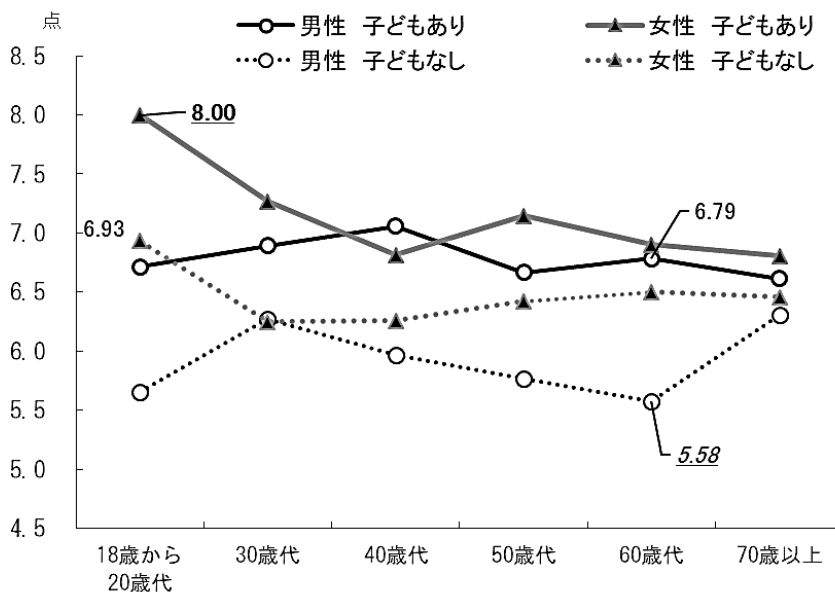
図表1-3-2 幸福感(年齢別×性別×未婚・既婚別)



(3) 年齢別×性別×子どもの有無別

年齢別×性別×子どもの有無別に幸福感を見ると、男女ともに子どもありの層の方が子どもなしの層より幸福感が高くなっています。男性は60歳代で、女性は18歳から20歳代で、子どもありの層と子どもなしの層の幸福感の差が大きくなっています(図表1-3-3)。(なお、統計的に有意な差が認められたのは、男性は30歳代から50歳代において、女性は50歳代以下でした。)

図表1-3-3 幸福感(年齢別×性別×子どもの有無別)

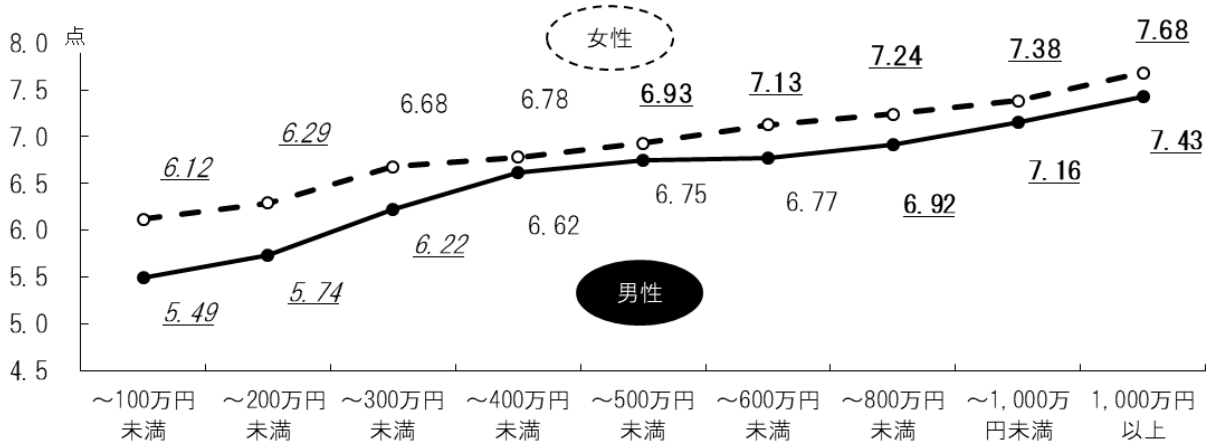


## 2 世帯収入別を中心とした二属性クロス分析

### (1) 世帯収入別×性別

世帯収入別×性別に幸福感を見ると、男女ともに世帯収入が高くなるほど幸福感もおおむね高くなる傾向にあり、全ての世帯収入で女性の幸福感が男性よりも高くなっています。世帯収入100万円未満で女性と男性の幸福感の差が大きくなっています（図表1-3-4）。

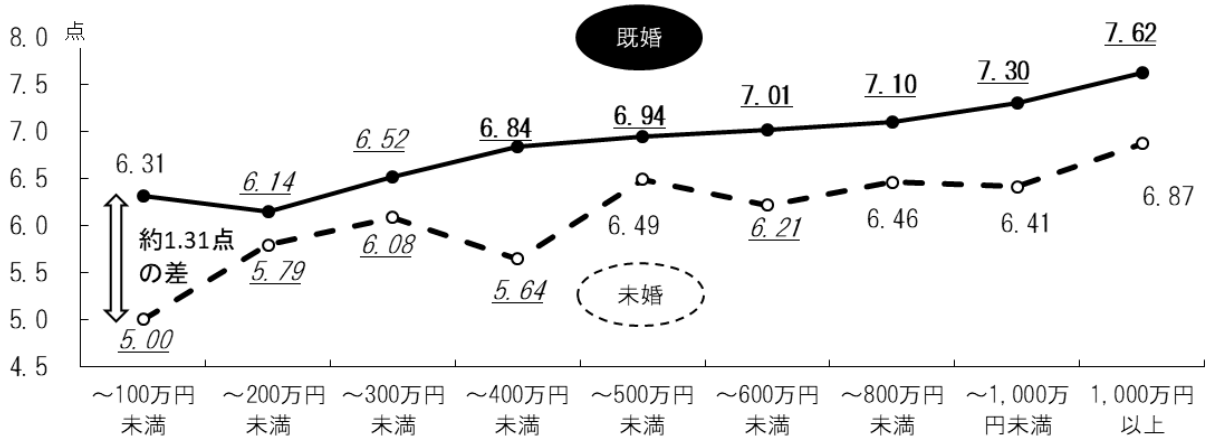
図表1-3-4 幸福感（世帯収入別×性別）



### (2) 世帯収入別×未婚・既婚別

世帯収入別×未婚・既婚別に幸福感を見ると、既婚は世帯収入が高くなるほど幸福感もおおむね高くなる傾向にあり、全ての世帯収入で既婚の幸福感が未婚よりも高くなっています。年収100万円未満の幸福感の差が大きくなっています。

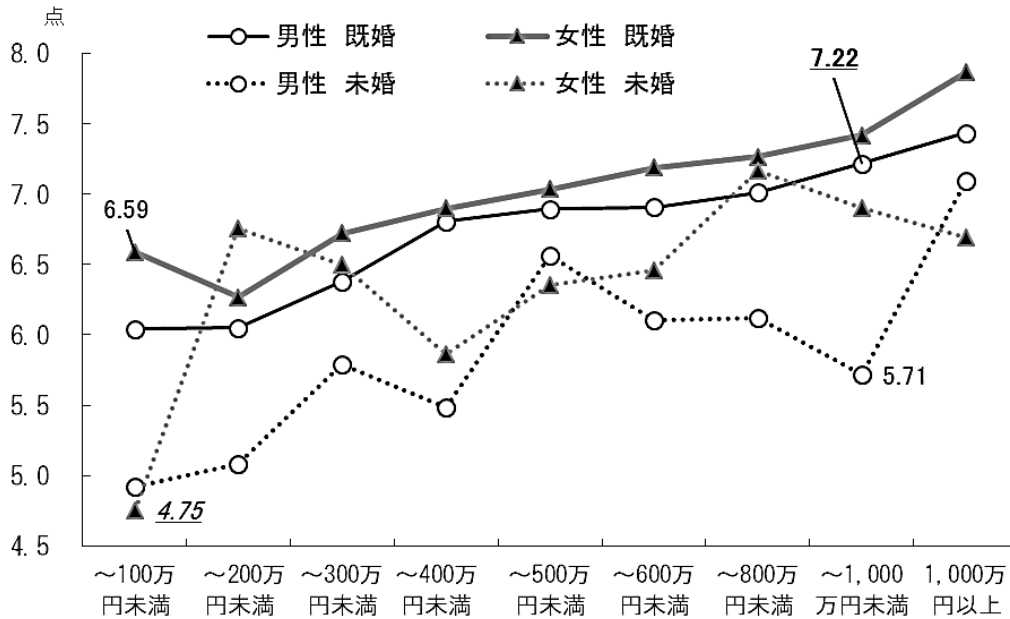
図表1-3-5 幸福感（世帯収入別×未婚・既婚別）



(3) 世帯収入別×性別×未婚・既婚別

世帯収入別×性別×未婚・既婚別の幸福感を見ると、男性では、世帯収入にかかわらずおおむね未婚よりも既婚の幸福感が高い傾向がありました。なお、男女とも既婚は年収に伴い幸福感が増加していますが、未婚ではそのような傾向が認められませんでした。男性では世帯収入800万円以上1,000万円未満において、女性では100万円未満において、未婚と既婚との幸福感の差が大きくなっています（図表1-3-6）。

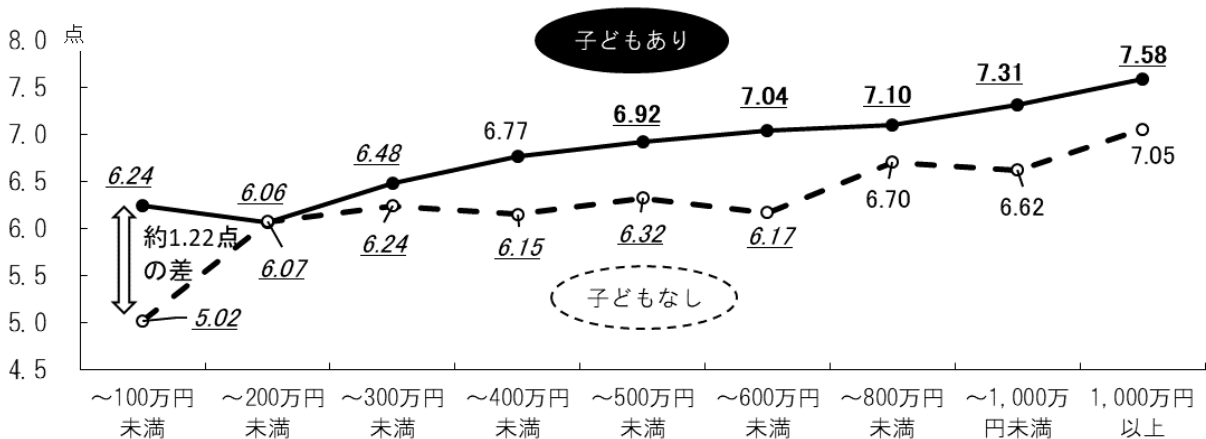
図表1-3-6 幸福感（世帯収入別×性別×未婚・既婚別）



(4) 世帯収入別×子どもの有無別

世帯収入別×子どもの有無別に幸福感を見ると、100万円以上200万円未満の世帯を除き、子どもありの層が子どもなしの層よりも幸福感が高くなっています。100万円未満で幸福感の差が大きくなっています。（図表1-3-7）。

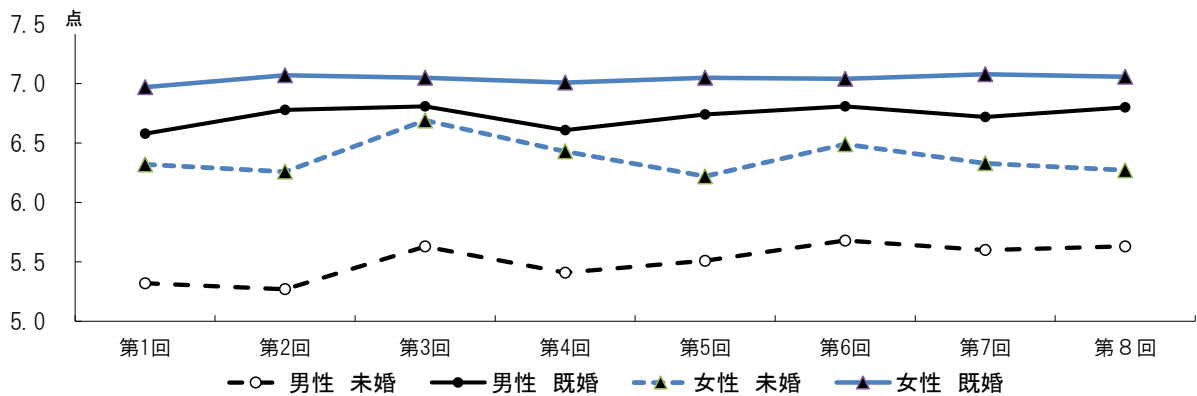
図表1-3-7 幸福感（世帯収入別×子どもの有無別）



## 参考1 属性ごとの幸福感の推移

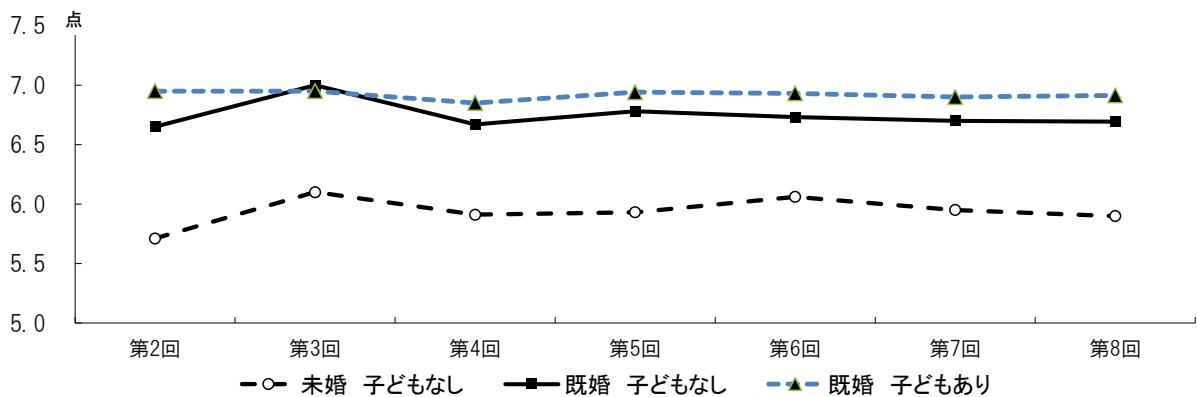
○既婚と未婚の幸福感について、さらに性別で幸福感の推移を見ていくと、全ての回で既婚の女性、既婚の男性、未婚の女性、未婚の男性の順で高くなっています（図表 参考1）。

参考1 未婚・既婚×性別の幸福感



○既婚と未婚の幸福感について、さらに子どもの有無で幸福感の推移を見ていくと、概ね既婚 子どもありの層、既婚 子どもなしの層、未婚子どもなしの層の順に高くなっています（図表 参考2）。

参考2 配偶関係×子どもの有無



※第1回調査では子どもの希望について質問していないため、第2回以降の調査結果を記載しています。

## 第4節 幸福感を判断する際に重視した事項と幸福感との関係

### 1 幸福感を判断する際に重視した事項の回答者全体の状況

幸福感を判断する際に重視した事項は、「健康状況」(68.2%)、「家族関係」(65.5%)が最も高く、次いで「家計の状況」(57.8%)となっています。また、第1回から第8回調査まで、8回連続、これらの事項が上位3位を占めています。

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回
年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
1	家族関係			健康状況		家族関係		健康状況
2	健康状況			家族関係		健康状況		家族関係
3	家計の状況			家計の状況		家計の状況		家計の状況

なお、調査方法等が同一ではないので単純な比較はできませんが、国の直近の調査では上位3項目は県と同一となっています(図表1-4-2)。

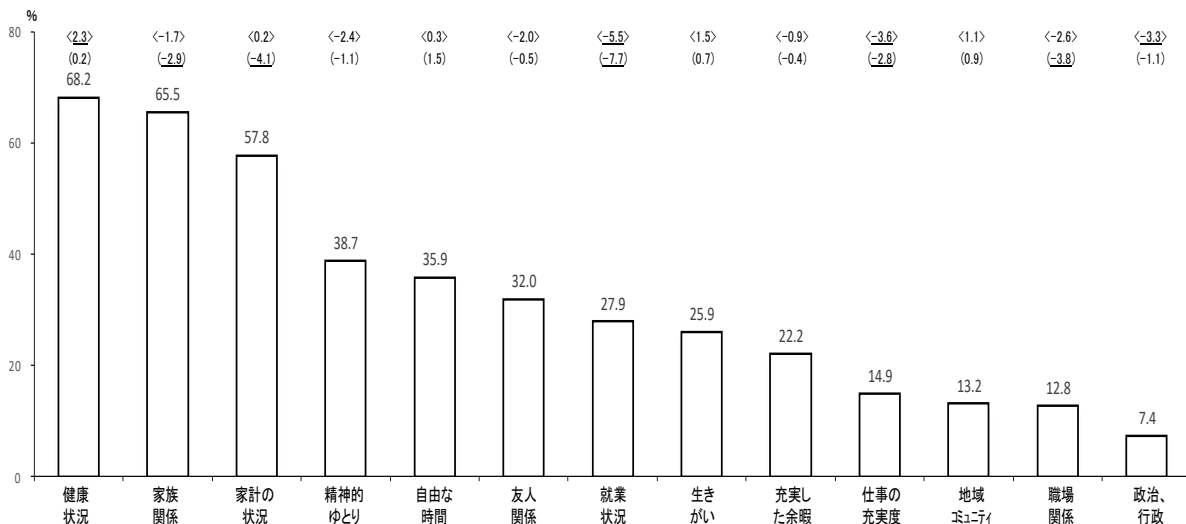
【凡例】

< >内の数字：第1回調査との差(ポイント)

( )内の数字：前回調査との差(ポイント)

下線の数字：統計的に有意な差がある場合

図表1-4-1 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)



図表1-4-2 参考とした国の調査

- ◎ 平成26年健康意識調査(実施主体：厚生労働省)
- ◎ 質問「前問で幸福感を判断する際に、重視した事項は何ですか。」(3つまで)  
注)国の選択肢には「政治、行政」がありません。
- ◎ 調査結果  
・健康状況(54.6%)、家計の状況(47.2%)、家族関係(46.8%)

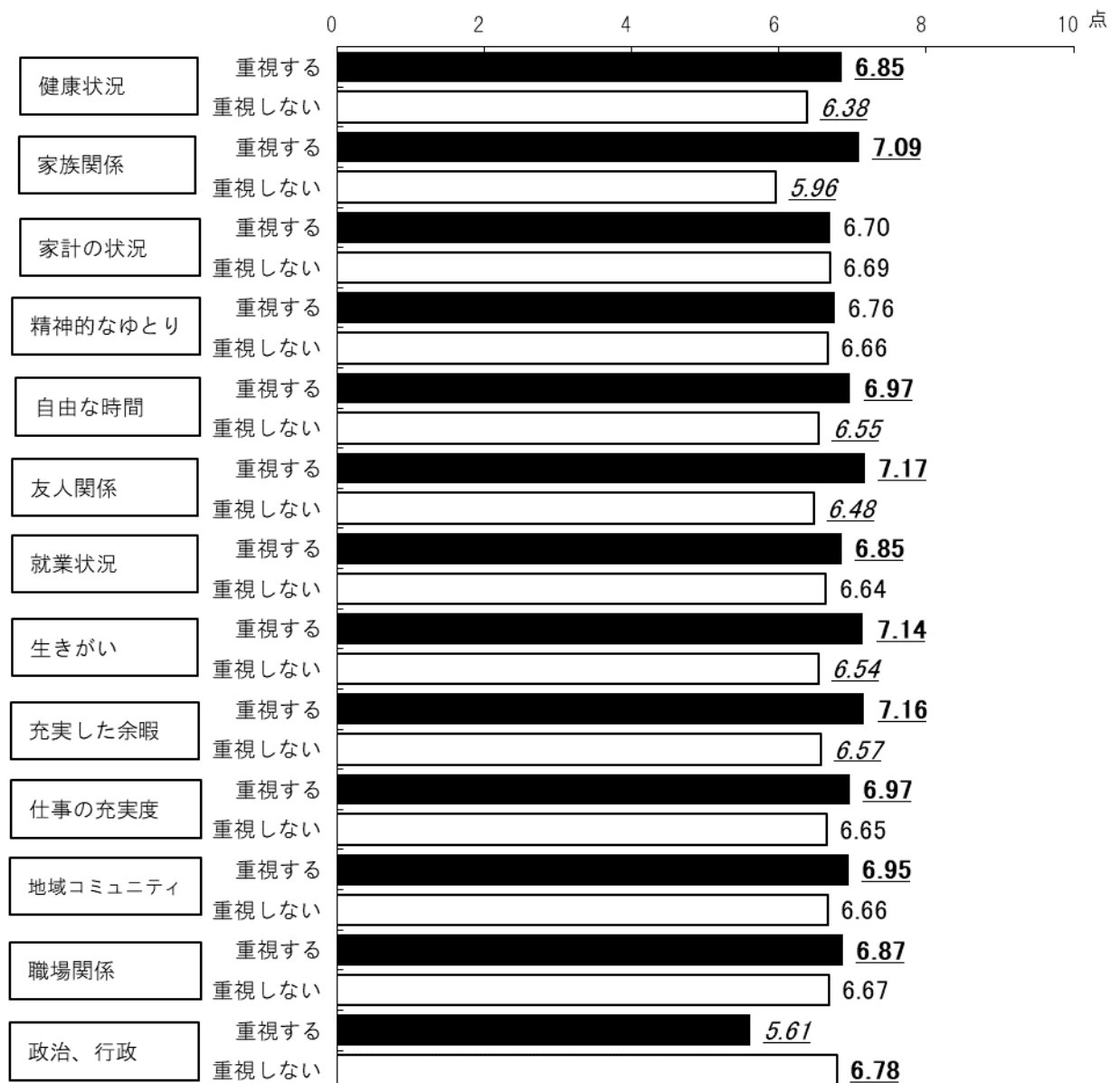
## 2 幸福感を判断する際に重視した事項と幸福感との関係

幸福感を判断する際に重視した事項について、選択した（重視する）人の幸福感の平均値と、選択しなかった（重視しない）人の幸福感を比較したところ、概ね各事項において重視した人の幸福感は、重視しなかった人より高くなっていますが、「政治、行政」では、結果が逆転しています。（図表1-4-3）。

【凡例】 **太字**の数字：幸福感の平均値が回答者全体より高く、かつ統計的に有意な差がある項目

斜字の数字：幸福感の平均値が回答者全体より低く、かつ統計的に有意な差がある項目

図表1-4-3 幸福感を判断する際に重視した事項を選択した（重視する）人と選択しない（重視しない）人の幸福感の平均値



### 3 幸福感を判断する際に重視した事項と幸福感の度合いとの関係

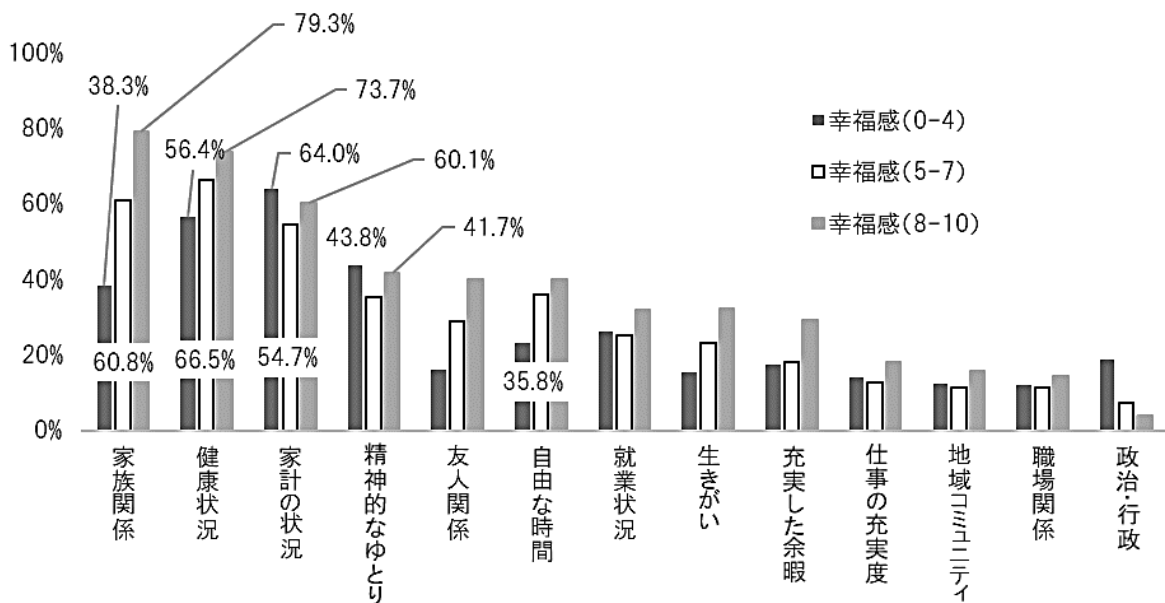
幸福感について、「0～4点」、「5～7点」、「8～10点」のグループに分けて分析を行いました。

幸福感「8～10点」のグループで選択した人が最も多かったものは「家族関係」(79.3%)、次いで「健康状況」(73.7%)、「家計の状況」(60.1%)となりました。

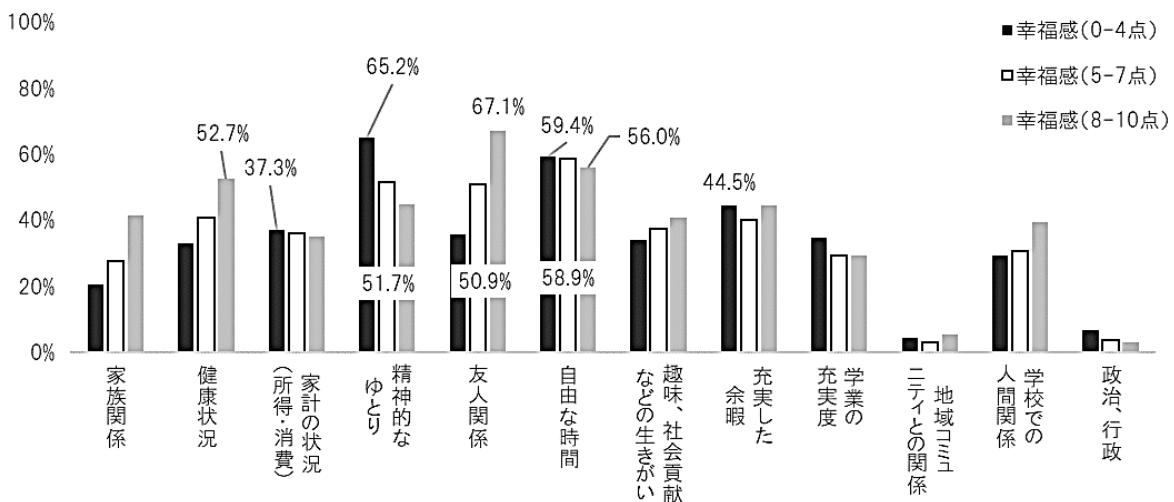
幸福感「5～7点」のグループでは、「健康状況」(66.5%)、「家族関係」(60.8%)、「家計の状況」(54.7%)の順で高くなっており、「8～10点」のグループとは順位が異なるものの、上位3項目は同じ事項でした。

幸福感「0～4点」のグループでは、「家計の状況」(64.0%)、「健康状況」(56.4%)、「精神的なゆとり」(43.8%)の順で高くなっており、他のグループでは上位3位にある「家族関係」(38.3%)が4番目となっています。4番目に高かった事項について、「8～10点」のグループでは「精神的なゆとり」(41.7%)、「5～7点」のグループでは「自由な時間」(35.8%)となっています。

図表1-4-4 幸福感を判断する際に重視した事項と幸福感



(参考) 大学生アンケート ・ 幸福感を判断する際に重視した事項と幸福感





## 第5節 幸福感を高める手立てと幸福感との関係

### 1 幸福感を高める手立ての県全体の状況

幸福感を高める手立てについては、「家族との助け合い」が66.2%、「自分自身の努力」(57.1%)、「友人や仲間との助け合い」(22.0%)の順で高くなっています。

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回
年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
1	—	家族との助け合い						
2	—	自分自身の努力						
3	—	友人や仲間との助け合い	国や地方政府からの支援	友人や仲間との助け合い	国や地方政府からの支援	友人や仲間との助け合い	国や地方政府からの支援	友人や仲間との助け合い

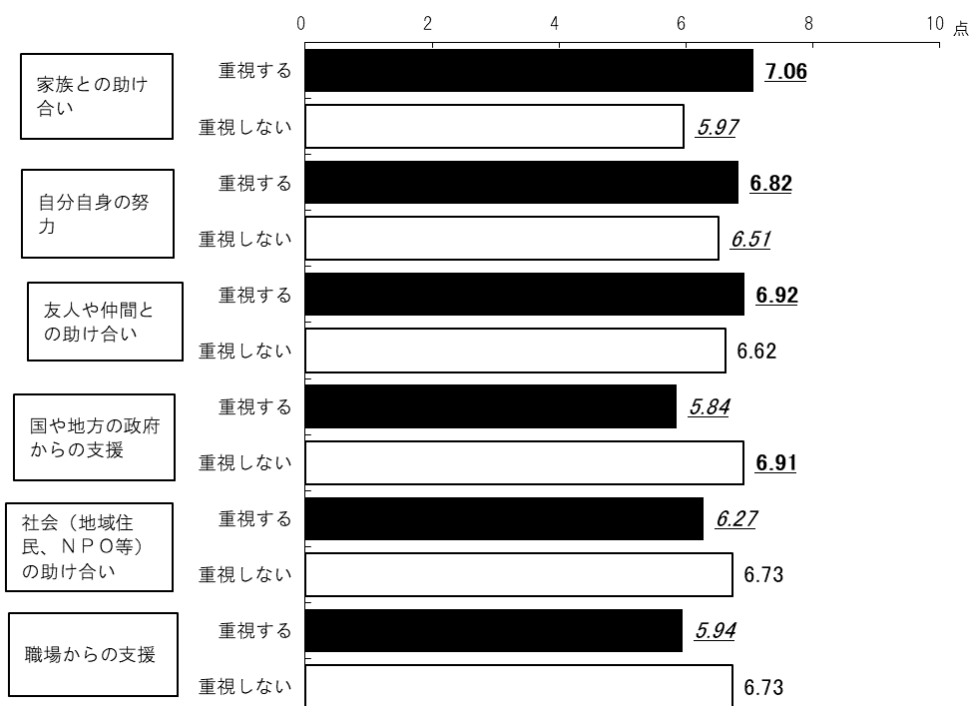
### 2 幸福感を高める手立てと幸福感との関係

幸福感を高める手立てについて、その事項を選択した(有効な手立てと考えた)人の幸福感の平均値と、選択しなかった(有効な手立てと考えなかった)人の幸福感の平均値を比較したところ、「家族との助け合い」、「自分自身の努力」及び「友人との助け合い」では、有効な手立てと考えた人の幸福感の平均値が、有効な手立てと考えなかった人の幸福感の平均値より高くなっています。それ以外の項目については、有効な手立てと考えた人の幸福感の平均値が、有効な手立てと考えなかった人の幸福感の平均値より低くなっています(図表 1-5-2)。

【凡例】 **太字**の数字：幸福感の平均値が回答者全体より高く、かつ統計的に有意な差がある項目

**斜字**の数字：幸福感の平均値が回答者全体より低く、かつ統計的に有意な差がある項目

図表 1-5-2 幸福感を高める手立てを選択した(有効な手立てと考える)人と選択しない(考えない)人の幸福感の平均値



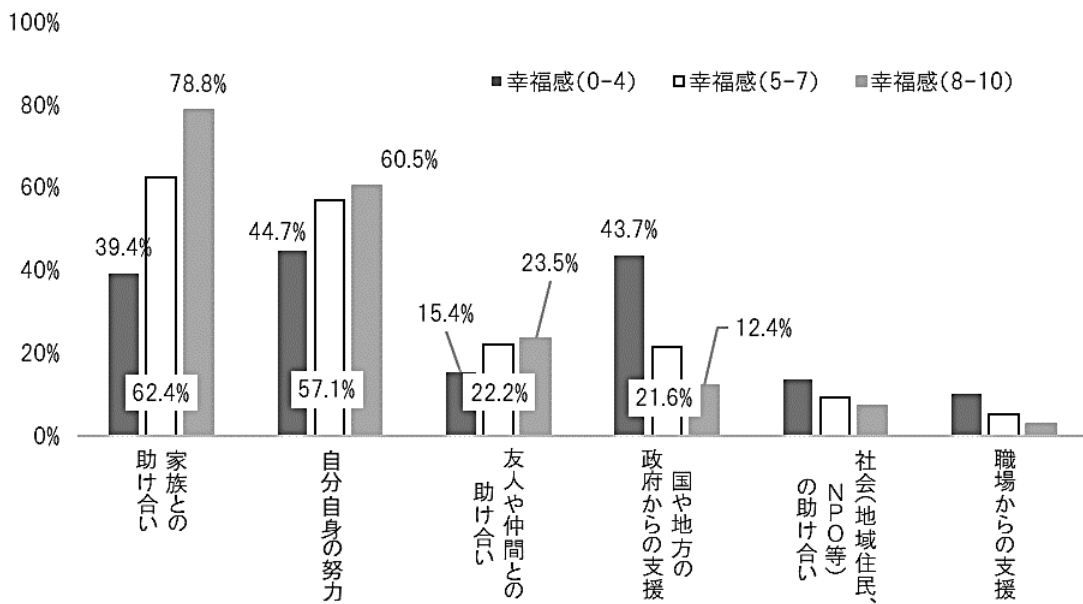
### 3 幸福感を高める手立てと幸福感の度合いとの関係

幸福感「8～10点」のグループで選択した人が最も多かったものは「家族との助け合い」(78.8%)、次いで「自分自身の努力」(60.5%)、「友人や仲間との助け合い」(23.5%)となりました。

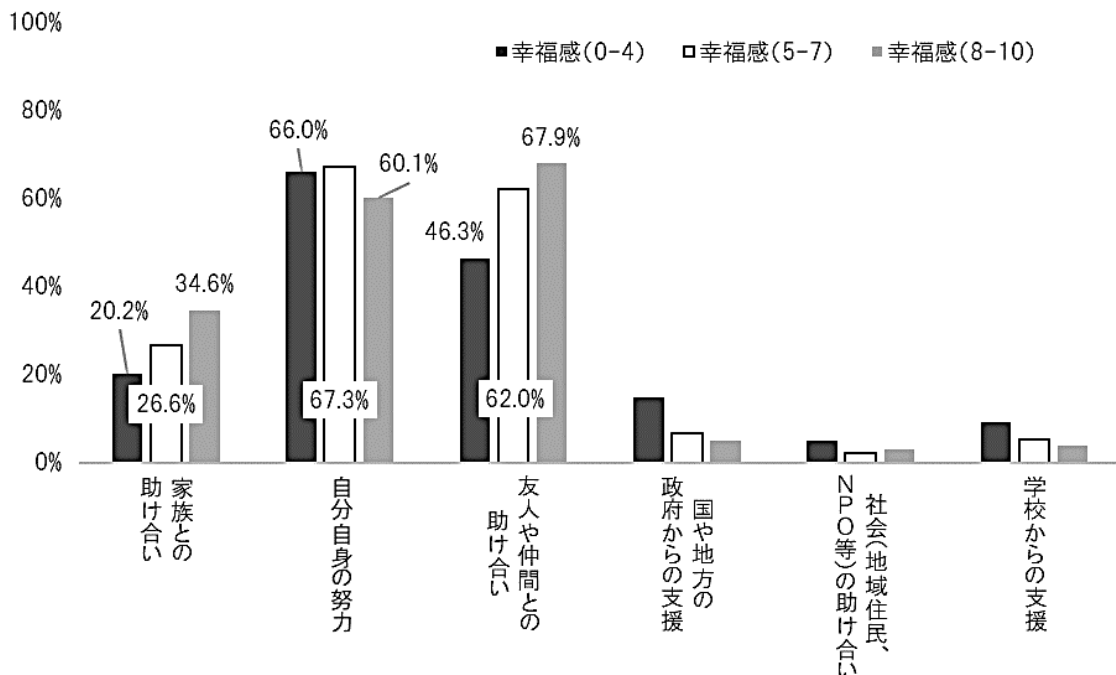
幸福感「5～7点」のグループでは、「家族との助け合い」(62.4%)、次いで「自分自身の努力」(57.1%)、「友人や仲間との助け合い」(22.2%)となり、「家族との助け合い」では「8～10点」のグループと10ポイント以上の差が生じています。

幸福感「0～4点」のグループでは、「自分自身の努力」(44.7%)、「国や地方政府からの支援」(43.7%)、次いで、「家族との助け合い」(39.4%)となり、「国や地方政府からの支援」を重視する人の割合が高くなっています。

図表 1-5-3 幸福感を高める手立てと幸福感



(参考) 大学生アンケート ・ 幸福感を高める手立てと幸福感



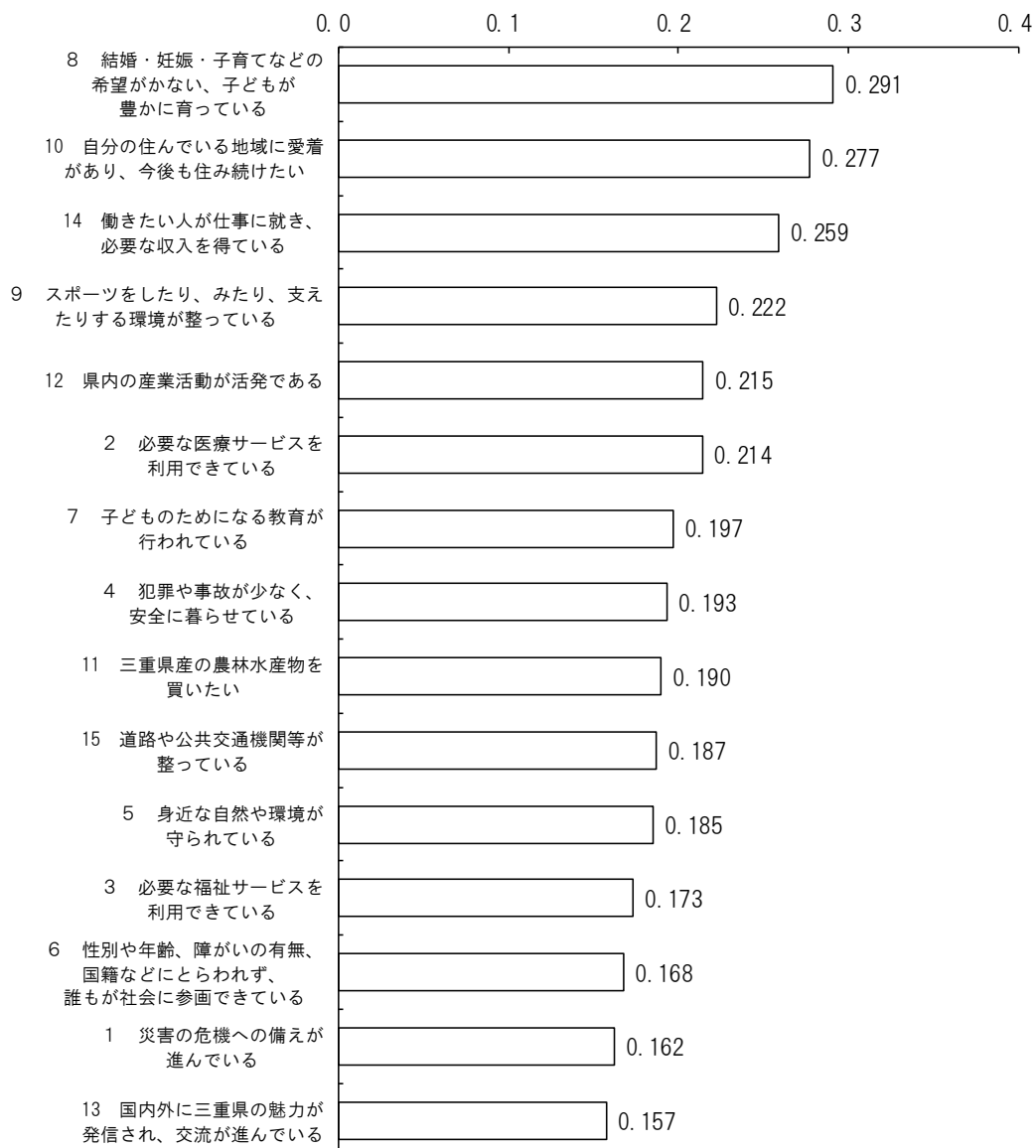
## 第6節 幸福感と幸福実感指標等との関係

### 1 幸福感と15の幸福実感指標との相関関係

幸福感と15の幸福実感指標との相関係数を算出したところ、相関係数がおおよそ0.1～0.3の範囲であることから、正の相関関係があり、幸福実感指標に係る実感が高い人ほど幸福感が高いという関係にあります。

上位3指標は、「8 結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、子どもが豊かに育っている」、「10 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」、「14 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている」となっており、他の12の幸福実感指標と比較して、幸福感との相関関係が強いと言えます（図表1-6-1）。また、近年、この3つの幸福実感指標が上位を占めています。

図表1-6-1 幸福感と15の幸福実感指標との相関係数

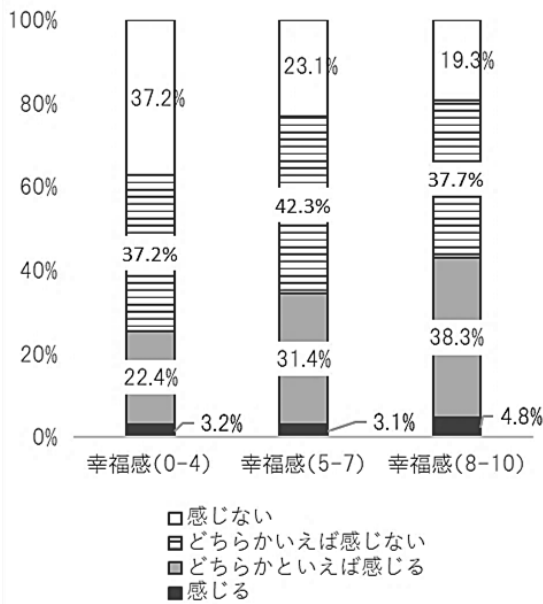


## 2 「幸福実感指標」と「幸福感」の関係

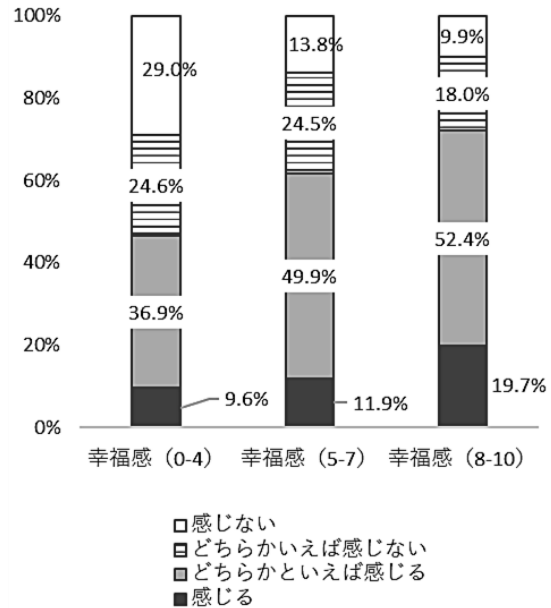
幸福感について、「0～4点」、「5～7点」、「8～10点」のグループに分けて分析を行いました。

全体を通じて、幸福感「8～10点」のグループの人は、幸福実感指標について「感じる」または「どちらかといえば感じる」を選択する割合が、「5～7点」、「0～4点」のグループより高くなっています。

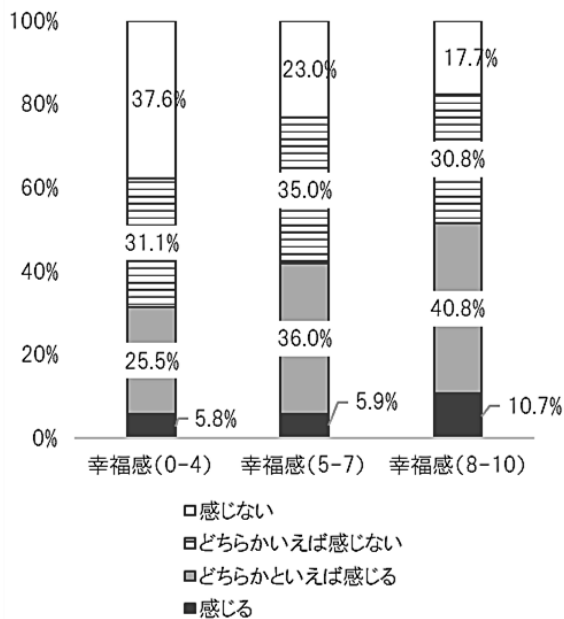
図表 1-6-2 (1) 災害の危機への備えが進んでいる



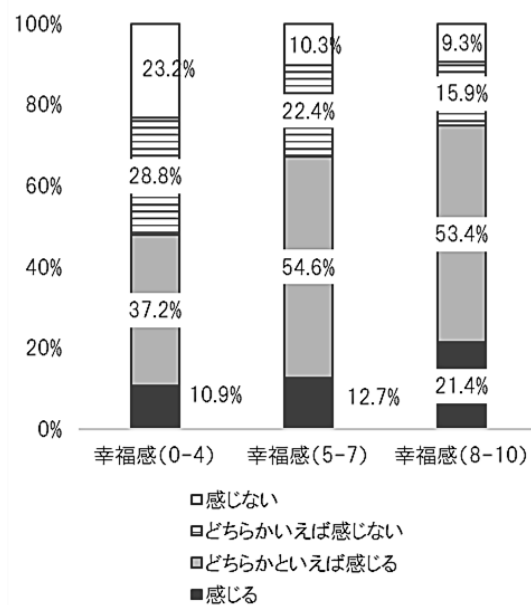
図表 1-6-2 (2) 必要な医療サービスを利用できている



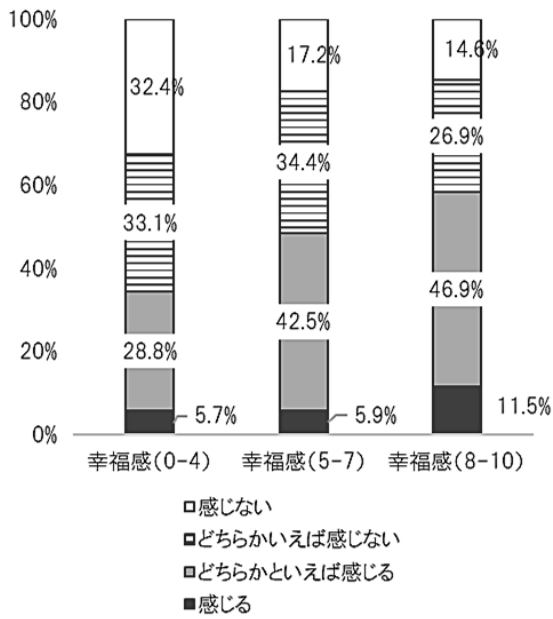
図表 1-6-2 (3) 必要な福祉サービスを利用できている



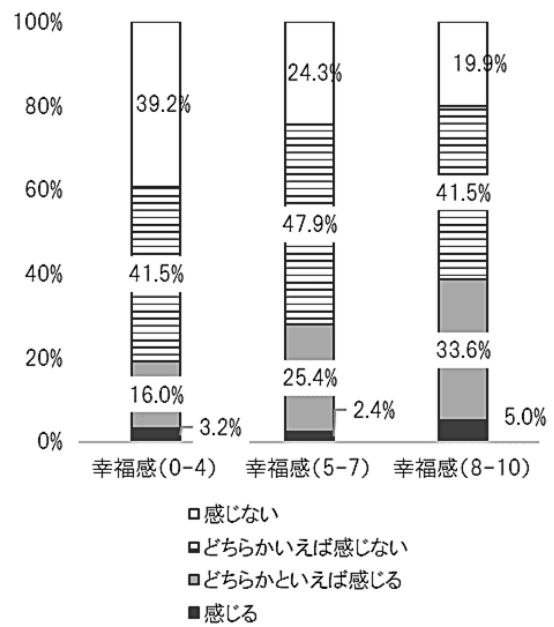
図表 1-6-2 (4) 犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている



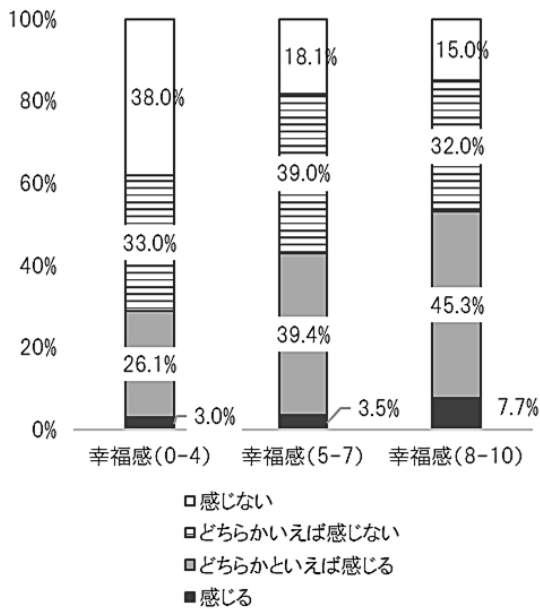
図表 1-6-2 (5) 身近な自然や環境が守られている



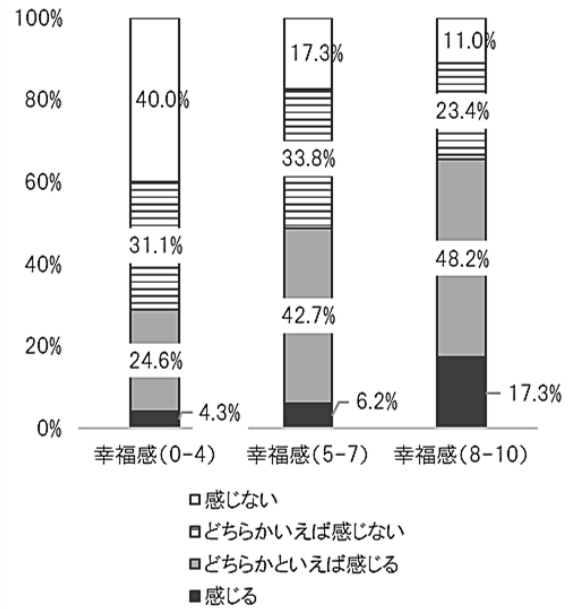
図表 1-6-2 (6) 性別や年齢、障がいの有無、国籍などにとらわれず、誰もが社会に参画できている



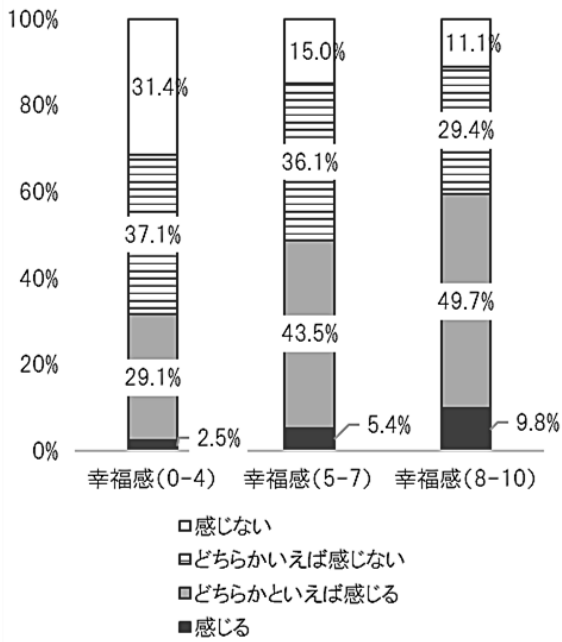
図表 1-6-2 (7) 子どものためになる教育が行われている



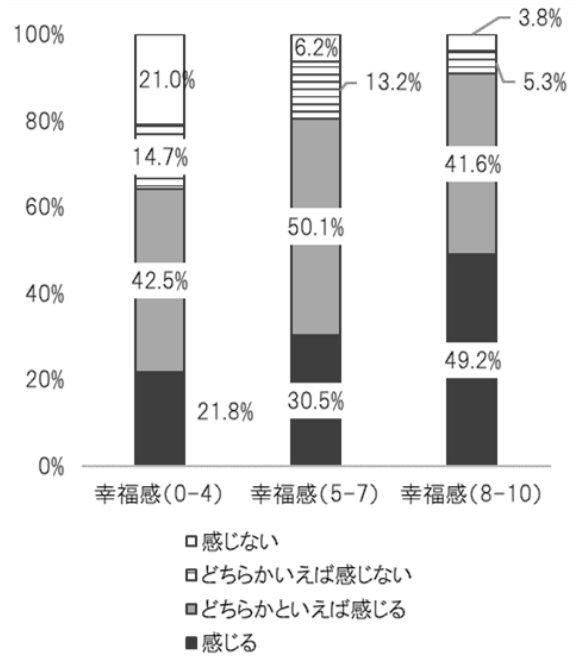
図表 1-6-2 (8) 結婚・妊娠・子育てなどの希望がない、子どもが豊かに育っている



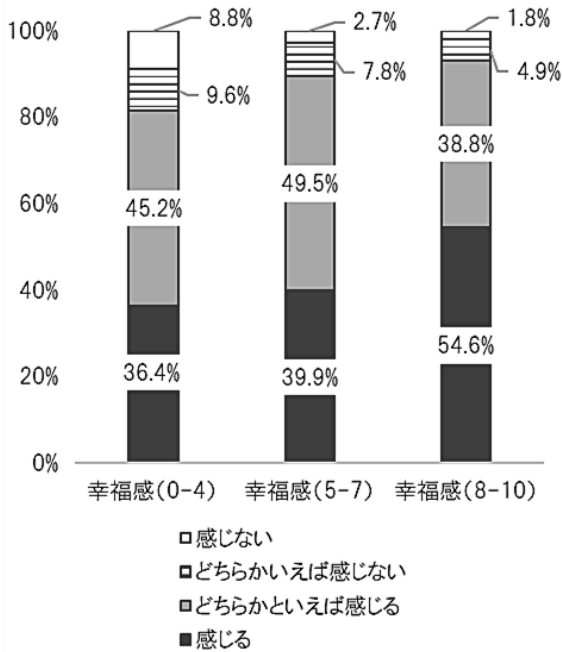
図表 1-6-2 (9) スポーツをしたり、みたり、支えたりする  
環境や機会が整っている



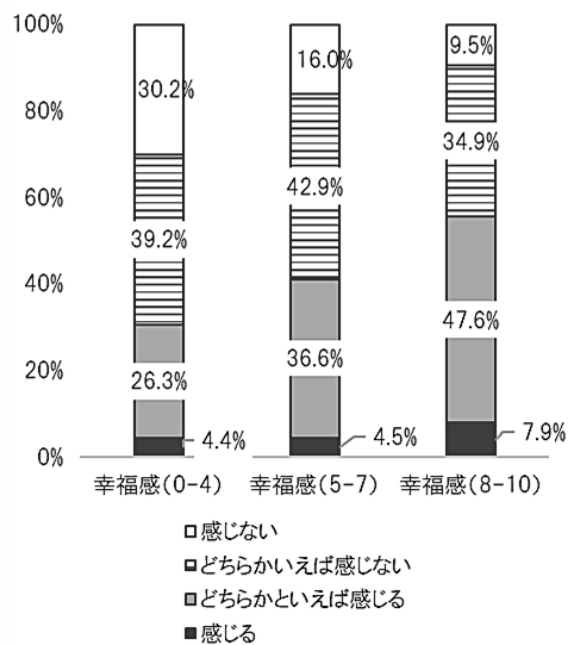
図表 1-6-2 (10) 自分の住んでいる地域に愛着があり、  
今後も住み続けたい



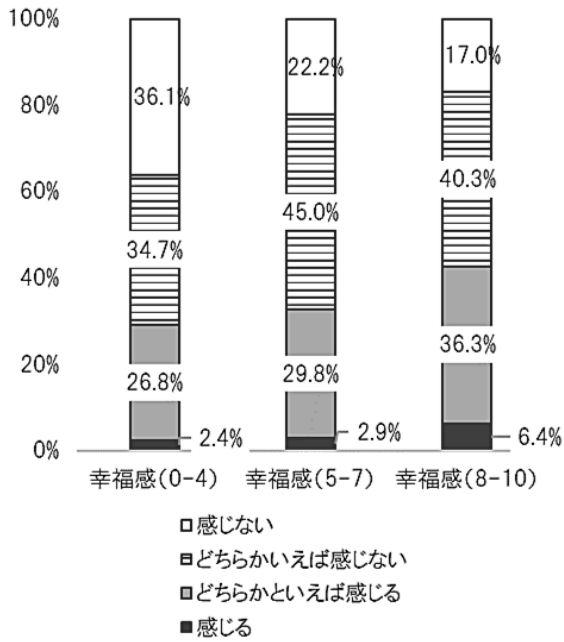
図表 1-6-2 (11) 三重県産の農林水産物を買いたい



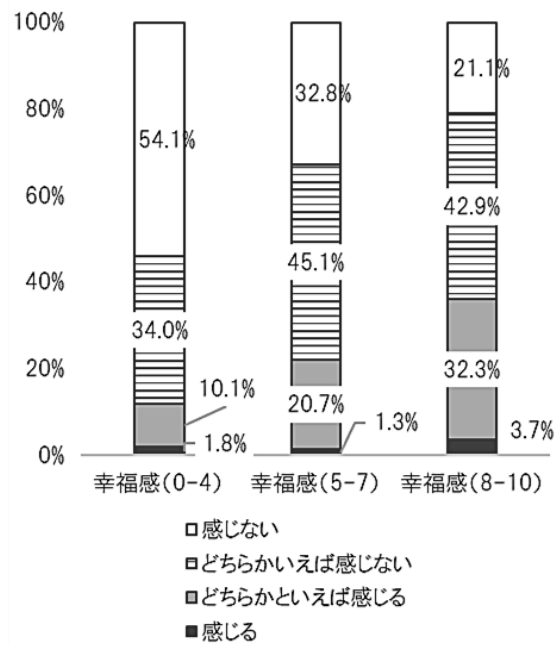
図表 1-6-2 (12) 県内の産業活動が活発である



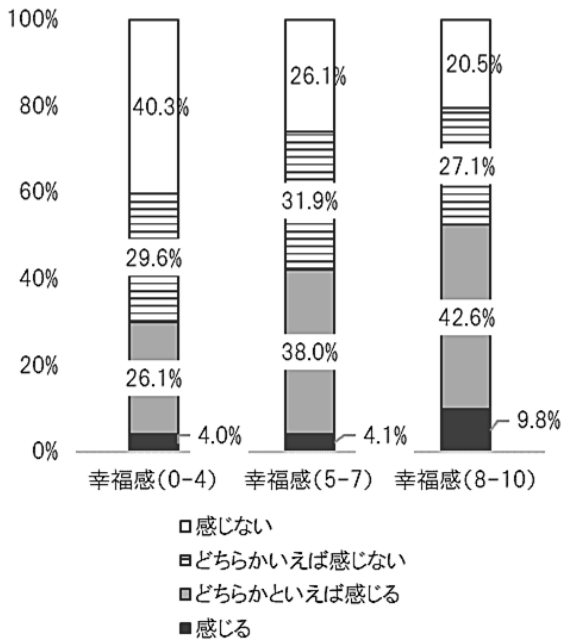
図表 1-6-2(13) 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる



図表 1-6-2(14) 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている実感



図表 1-6-2(15) 道路や公共交通機関等が整っている



## ■幸福感の現状からの政策の示唆

これまでの「みえ県民意識調査」と同じく、今回調査においても、男性より女性、未婚より既婚、子どもがいない層より子どもがいる層の幸福感が概ね高い傾向にあること、単独世帯より複数世帯の方が幸福感が高くなること、また、世帯収入が高くなるほど幸福感も高くなる傾向があることが確認できました。

幸福感を判断する際に重視した事項の上位は、前回調査までと同様、「家族関係」や「健康状況」、「家計の状況」となり、幸福感を高める手立ての上位は、「家族との助け合い」、「自分自身の努力」「友人や仲間との助け合い」となっていました。

幸福感の度合い別に分析したところ、幸福感を判断する際に重視した事項として、幸福感の高い人、中程度の人は「家族関係」と「健康状況」の次に「家計の状況」を選んでいましたが、幸福感の低い人は「家計の状況」、「健康状況」、「精神的なゆとり」の順となっていることがわかりました。

また、幸福感の度合いと幸福感を高める手立てとの関係では、幸福感の高い人、中程度の人は「家族との助け合い」、「自分自身の努力」、「友人や仲間との助け合い」の順に選択していますが、幸福感の低い人は「自分自身の努力」に次いで「国や地方政府からの支援」を選んでいました。

幸福実感指標については、幸福実感が高い人ほど幸福感が高いという関係があり、特に他の指標と比較して

「8 結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、子どもが豊かに育っている」、

「10 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」、

「14 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている」

の指標に一定の相関がみられました。

これらのことから、引き続き、少子化対策や地域への愛着を高める施策、健康づくりに関する施策を進め、また、働く場を確保し、安定した収入を得られる環境を作っていくことが、県民の幸福感を高めていくことに関連すると考えられます。

さらに、友人、仲間との助け合いや精神的な支えが得られる環境、個人の努力が認められる環境づくりも必要と考えられます。